本書は、旧製品の取扱説明書を電子化したものです。
一部見えにくい箇所がございます。

記載されている内容はすべて販売当時のものです。
仕様や価格などは、その後予告なしに変更されることがあります。
あらかじめご了承ください。

CASIO
SPEED MEMORY 100
384
使用説明書

384

このたびは弊社製品をお買い上げくださいまして誠にありがとうございました。末長くご愛用いただくために、この説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱いくださいますようお願い申し上げます。
なお、この取扱説明書は大切に保存し、必要に応じてご覧ください。
時計のお取り扱いで万一誤ったボタン操作を行なっても、製品に障害を与えることは一切ありません。この時計の特長、機能を十分使いこなしていただくためにも、ご納得のゆくまでお試しください。

ご使用上の注意

防　水　性●裏蓋にWATER RESISTまたはWATER RESISTANTと表示されているもの。

	BAR 無し	5BAR	10BAR	20BAR	30BAR
洗顔、雨	○	○	○	○	○
水仕事、水泳	×	○	○	○	○
ウインドサーフィン	×	×	○	○	○
スキンダイビング(素潜り)	×	×	○	○	○

※専門的な潜水＝スキューバダイビング（アクアラング）でのご使用はお避けください。
●裏蓋にWATER RESISTまたはWATER RESISTANTと表示されていないもの。防汗構造になっておりませんので、多量の汗を発する場合、もしくは湿気の多い場所でのご使用や直接水に触れるようなご使用はお避けください。
●海水に浸したときは真水で洗い、塩分や汚れを拭き取ってください。
●防水性を保つために定期的（２～３年を目安に）なパッキン交換をおすすめします。
●電池交換の際、防水検査を行ないますので、必ずお買上げの店あるいは最寄りのカシオサービスセンターにお申し付けください。（特殊な治具を必要とします）
●防水時計の一部にデザイン上皮バンドを使用しているモデルがありますが、皮バンド付の状態で、水仕事・水泳など直接水のかかるご使用はお避けください。

バ　ン　ド●バンドは指一本が入る程度の余裕をもたせてご使用ください。
●樹脂バンドも皮バンド同様、日々の使用により劣化し、切れたり折れたりする場合があります。そのときは、お買い上げ店または最寄りのカシオサービスセンターにバンド交換をお申し付けください。実費にて申し受けます。
●樹脂バンドの表面にシミ状の模様が発生することがありますが、人体および衣服への影響はありません。また、布等で簡単に拭き取ることができます。

温　　度●直射日光が長く当ったり、高温になる所に放置しないでください。また、寒い所に長く放置しないでください。遅れ、進みが生じたり、止まったりすることがあります。
●＋60℃以上の所に長時間放置すると液晶パネルに支障をきたすことがありますのでご注意ください。

ショック●通常の使用状態でのショックや軽い運動（キャッチボール、テニスなど）には十分耐えますが、落としたり、強くぶつけると故障の原因になります。

磁　　気●家庭用電気製品（テレビなど）程度の磁気には影響しないように耐磁構造をとってありますが、強い磁気を発生する器具に近づけると一時的に遅れ・進みが生じることがあります。

薬　品　類●水銀や化学薬品（シンナー、ガソリン、各種溶剤、またはそれらを含有しているクリーナー、接着剤、塗料、薬剤、化粧品類）が付着すると、ケース、バンドなどに変色や破損を生ずることがありますのでご注意ください。

保　　管●長期間ご利用にならないときは汚れ、汗、水分などを拭き取り、高温、多湿の場所を避けて保管してください。

お手入れのしかた●時計も衣服同様、直接身につけるものです。本体ケースやバンドの汚れ、汗・水分などは、通気性のよい柔らかい布で拭き取り、常に清潔にご使用ください。
●金属バンドは、時々、部分洗いすることをおすすめします。部分洗いの際、時計本体に水がかからないようにしてください。非防水時計の場合は故障の原因となり、また防水時計でも石けん水により防水性が損なわれることがあります。

お手入れを怠ると●「サビ」
●ステンレススチールはサビにくい性質ですが、汚れによりサビが発生します。
※汚れにより酸素が断たれると、表面の酸化被膜が維持できなくなり、サビが発生します。
●表面はきれいでも、すきまに付着した汚れやサビがしみ出して、衣類の袖を汚すことがあります。
●「かぶれ」
●皮膚の弱い方やアレルギー体質の方は、かぶれたりすることがあります。
●特に、皮バンドや樹脂バンドをお使いの方は、こまめにお手入れするか、金属バンドのご使用をおすすめします。
●万一、かぶれた場合には、そのバンドの着用を中止し、皮膚科の専門医にご相談ください。

蛍光商品のお取り扱いについて

●蛍光色商品のケース、バンドを使用しているものは、以下の点にご注意ください。
● 長時間、直射日光に当てますと、色あせする場合があります。
● 長時間、濡れたままにしておくと色が落ちるおそれがありますので、濡れているときはすぐに水分をふきとって、乾かしてください。
● 長時間、他の商品と密着させたり、濡れたまま他の商品と一緒にしておくと、他の商品に色が移行することがありますので、濡れているときはすぐに水分をふきとり、密着保存を避けてください。
● プリントがしてある場合は、プリント部分を強くこすると他の部分に色がつくことがあります。

電池交換について

最初の電池●工場出荷時にモニター用電池が組み込まれておりますので、記載された電池寿命に満たないうちに切れることがあります。
※モニター用電池とは時計の機能や性能をチェックするための電池のことで、時計本体価格に電池代は含まれておりません。
※電池交換の場合は保証期間内でも有料となります。

消　　耗●電池が消耗しますと「時刻の狂いが目立った」「表示が見えにくくなった」「消えた」します。
●消耗した電池を使っていると故障の原因になりますので、お早めに交換してください。

電池交換●電池交換は必ずお買上げ店または最寄りのカシオサービスセンターにお申し付けください。
●電池は必ず当社指定の専用電池と交換してください。指定以外の電池を使用しますと故障の原因となる場合があります。
●電池交換の際、防水検査を行ないます。（防水検査は別途有料となります）

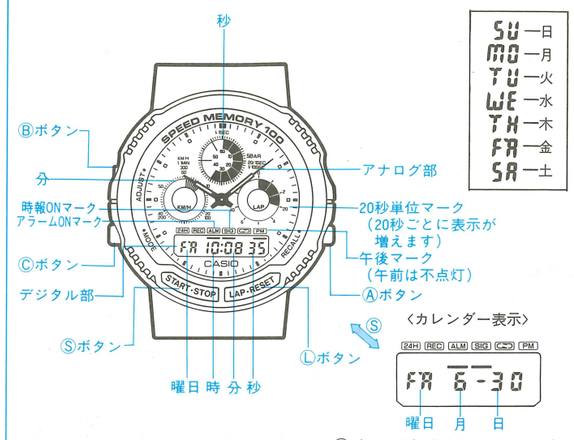
液晶パネルの交換について

液晶パネルは約７年を過ぎますと数字や文字が読みにくくなる場合があります。そのときはお買い上げ店またはカシオサービスセンターに交換をお申し付けください。実費にて申し受けます。

操作のしくみと表示の見方

Ⓒボタンを押すごとに以下の順でデジタル部の表示が切り替わります。
（押すごとに確認音が鳴ります。）
※各モードでその機能を使用した後、Ⓒボタンを押すと直接デジタル時刻モードに戻ります。
※表示内容や使い方については各機能の項目をご覧ください。

デジタル時刻モード



（曜日の見方）

SU	一日
MO	一月
TU	一火
WE	一水
TH	一木
FR	一金
SA	一土

※Ⓢボタンを押すごとにデジタル部が時刻表示とカレンダー表示に切り替わります。

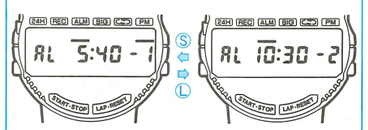
●デジタル時刻モードのときにⒶボタンを押すごとに12時間制表示と24時間制表示とが切り替わります。

Ⓒ ※以下アナログ部省略 Ⓒ

アラームモード

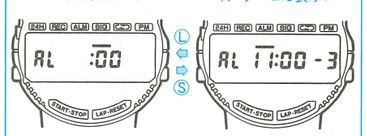
アラームモードではⓈまたはⓁボタンを押すごとに⇨の順で表示が切り替わります。
※詳しくはアラーム機能の使い方をご覧ください。

〈アラーム1表示〉 〈アラーム2表示〉



Ⓢ Ⓛ

〈時報表示〉 〈アラーム3表示〉



セットモード



Ⓒ

タイマーモード

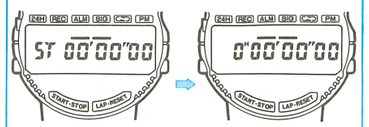


約１秒後



Ⓒ

ストップウオッチモード



約１秒後

時刻・カレンダーの合わせ方…操作のしくみにしたがいⒸボタンを押してセットモードにします。

電池交換後などで時刻やカレンダーが合っていない場合は、以下の方法で合わせてください。アナログ時刻とデジタル時刻を同じに合わせるときは、まずデジタル時刻を合わせてから、アナログ時刻をデジタル時刻に合わせたほうが便利です。
なお、アナログ部は内部での秒カウントのみデジタル部の時刻と連動しています。

デジタル時刻・カレンダーの合わせ方

デジタル部の時刻・カレンダーを合わせるときは、Ⓒボタンを押してデジタル部をセットモード（全表示点滅）にします。

■秒の合わせ方… 30秒以内の遅れ・進みの修正（デジタル部のみ）

月に１度ぐらいこの「秒合わせ」をしていただくと、時計はいつも正確です。

(1)デジタル部セットモードのときに、Ⓑボタンを押すと秒が点滅します。
［確認］⇨“秒”が点滅していますか？

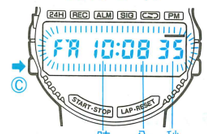
(2)時報に合わせて、ⓈまたはⓁボタンを押すと「秒」が点滅しながら00からスタートします。

秒が00～29のときは切り捨てられ、30～59のときは１分くりあがって、00秒からスタートします。

※時報は「時報サービス電話117番」が便利です。

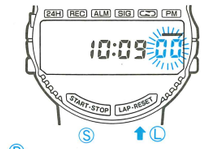
(3)Ⓑボタンを押してからⒸボタンを押すとデジタル時刻モードに戻ります。

〈セットモード〉



※アナログ部省略







※デジタル部の時刻を秒合わせすると、デジタル部とアナログ部の秒を次のように補正します。
〈秒が00～19のとき〉
●デジタル部の秒を00にする。
●アナログ部の分針はそのままで、内部の秒カウントを00にする。
〈秒が20～29のとき〉
●デジタル部の秒を00にする。
●アナログ部の分針は20秒位置で待機し、秒が40秒になったときに分針が40秒位置に進みます。
〈秒が30～59のとき〉
●デジタル部の分を＋１分し、秒を00にする。
●アナログ部の分針を次の１分台に進め、内部の秒カウントを00にする。

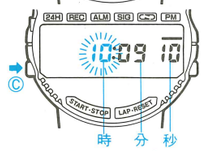
■時刻・カレンダーの合わせ方

(1)デジタル部がセットモードのときにⒷボタンを押すと秒が点滅します。
［確認］⇨“秒”が点滅していますか？

〈セットモード〉

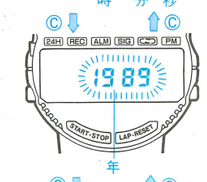


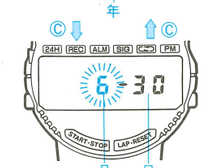
(2)Ⓒボタンを押します。
※セットモードのとき、Ⓒボタンを押すごとに点滅個所が以下の順で移動します。
点滅個所がセット可能ですので、Ⓒボタンでセットしたい個所を選びます。





※「年」は1985年～2029年までセットできます。
※曜日は年・月・日を合わせれば自動的にセットされます。



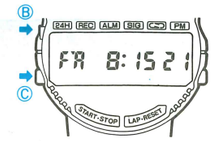


(3)点滅個所がⓁボタンを押すごとに１つずつ進み、Ⓢボタンを押すごとに１つずつ戻ります。また、それぞれ押し続けると早送りができます。



Ⓒボタンでセットしたい個所を選び、ⓈまたはⓁボタンで表示をセットするという操作をくりかえし行ない、時刻を合わせてください。
注）「時」のセットのとき午前(不点灯)／午後(PM)、24時間制(24H)にご注意ください。

(4)セットが終わったら（どの個所が点滅していても）、Ⓑボタンを押してからⒸボタンを押すとデジタル時刻モードに戻ります。



●デジタル部がセットモードで表示を点滅させたままにしておくと、２～３分後自動的に点滅が止まります。
●カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーですので、電池交換時以外は修正不要です。

アナログ時刻の合わせ方

デジタル部の表示がデジタル時刻モードのときに合わせます。
分針はデジタル部の秒が０秒、20秒、40秒になったとき1/3分(20秒)ずつ進みます。

■アナログ時刻の合わせ方

デジタル部の表示がデジタル時刻モードのときにⒷボタンを押すと1/3分(20秒)ずつ進み、押し続けると早送りができますので、時・分を合わせます。
※アナログ部は時計回りの方向のみ回せ、逆送りはできません。



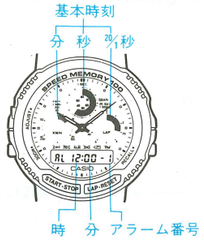
●デュアルタイム

デジタル部の時刻をアナログ部の時刻と別の時刻（海外時刻など）にセットすれば、デュアルタイムとして使うことができます。

RE06030324A

時刻アラーム・時報の使い方…操作のしくみにしたがってⓒボタンを押し、アラームモードにします。

アラームは分単位で時・分がセットでき、セット時刻になると20秒間電子ブザーで知らせてくれます。
なお、3つのアラームはいずれも同じ使い方ができ、同時に3つをセットすることもできます。
また、毎正時(00分のとき)を“ピッピッ”と電子ブザーで知らせる時報もセットすることができます。
※時刻アラーム・時報ともデジタル時刻モードで表示される基本時刻にしたがいます。



●時刻アラームのセットのしかた

(1)アラームモードでⓁまたはⓈボタンを押して合わせたいアラーム番号(1～3)を表示させます。

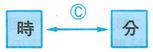


※アナログ部省略

(2)Ⓑボタンを押すと「時」が点滅し、アラームONマークが点灯します。



(3)Ⓒボタンを押すごとに点滅個所が「時」と「分」を移動します。

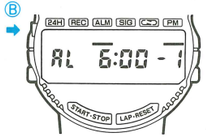


(4)点滅個所がⓁボタンを押すごとに1つずつ進み、Ⓢボタンを押すごとに1つずつ戻ります。それぞれ押し続けると早送りができます。
注)「時」のセットのとき午前(不点灯)／午後(PM)にご注意ください。
注)基本時計の時刻表示を24時間制表示(24H)にしているときはアラーム時刻のセットも自動的に24時間制表示となります。



Ⓒボタンでセットしたい個所を選び、Ⓛ・Ⓢボタンで表示をセットするという操作をくりかえし行ない、時・分を合わせてください。

(5)セットが終わりましたら、Ⓑボタンを押してセット完了です。



●アラーム時刻セット状態で表示を点滅させたままにしておくと、2～3分後自動的に点滅が止まります。

●時刻アラーム・時報を鳴らすには

各アラーム表示(1～3)、時報表示のとき、Ⓐボタンを押すごとに各アラーム表示のときはアラームONマーク(ALM)、時報表示のときは時報ONマーク(SIG)が点灯・不点灯をくりかえします。
アラームONマークまたは時報ONマークが点灯しているときに各々鳴ります。



●鳴っている電子ブザーを止めるには

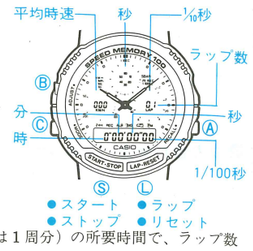
鳴っている電子ブザーを止めるにはⒶⒸⓈⓁのいずれかのボタンを押します。

●モニターアラーム

アラームモードでⓈまたはⓁボタンを押し続けると、押している間電子ブザーが鳴ります。

ストップウオッチの使い方…操作のしくみにしたがってⓒボタンを押し、ストップウオッチモードにします。

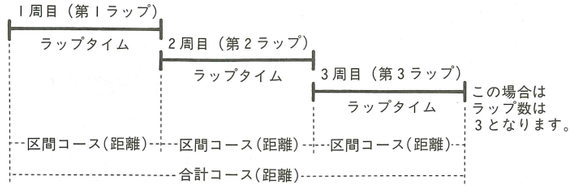
ストップウオッチは1/100秒単位で、最大23時間59分59秒99(24時間計)まで計測し、以後それぞれ自動的に0に戻って計測を続けます。※
さらに、最大100本のラップタイムと区間平均時速、合計タイムと全体の平均時速をメモリーできる機能(詳しくは「メモリー機能の使い方」参照)があります。
※区間平均時速は周回競技では1周の平均時速となります。



〈ラップについて〉

●ラップタイムは計測中の任意の区間(周回競技では1周分)の所要時間で、ラップ数は任意の区間数(周回競技では周回数)です。

例：陸上の周回競技では



■一般計測のしかた

ストップウオッチ使用中にⒸボタンを押して他のモードにしても、計測には影響ありません。

●通常の計測

Ⓢ→Ⓢ→Ⓛ
スタート ストップ リセット
※積算計測…ロスタイムがある場合はストップ後リセットせずに再スタート(Ⓢボタンを押す)すれば表示タイムに引き続き計測を始めます。

●ラップ計測

Ⓢ→Ⓛ→Ⓛ……→Ⓢ→Ⓛ
スタート 第1ラップ 第2ラップ ストップ リセット
※ラップタイム表示は約8秒後に自動解除するようになっています。

●1着・2着同時計測

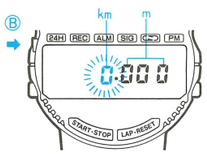
Ⓢ→Ⓛ→Ⓢ→Ⓐ
スタート 1着がゴール 2着がゴール 1着タイム表示
(2着タイム表示)
※計測前に距離をセットしておけば、時速を計算することもできます。
(周回ラップ数は“1”としてください。)

■メモリー機能の使い方

本機は区間コース(周回競技では1周)の距離および周回ラップ数(周回競技では周回数)をセットしておけば、計測した内容(ラップタイム)から自動的に区間平均時速(周回競技では1周分の平均時速)を計算し、メモリーします。メモリーされたラップタイムと区間平均時速はⒶボタンを押すごとにメモリー内容を呼び出して見ることができます。
※セットできる区間コース距離と周回ラップ数は99.999km、100周までです。

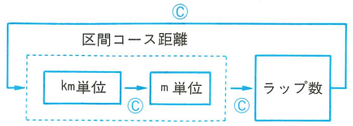
●メモリー計測のしかた

〈準備〉
区間コースの距離と周回ラップ数をセットする。
例) 区間コース距離200m、周回ラップ数10周をセットする。
(1)ストップウオッチモードでⒷボタンを押すと区間コース距離のkm単位が点滅してセットモードになります。



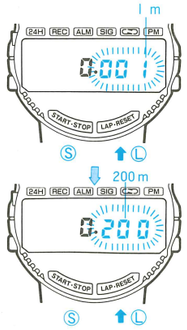
※アナログ部省略

(2)セットモードではⒸボタンを押すごとに点滅個所が以下の順で移動します。点滅個所がセット可能ですので、Ⓒボタンでセットしたい個所を選びます。

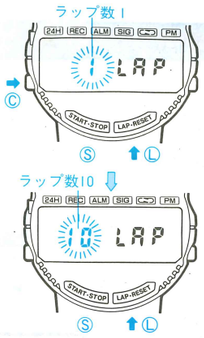




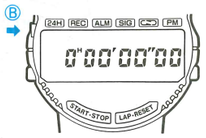
(3)Ⓛボタンを押すごとに1つずつ進み、Ⓢボタンを押すごとに1つずつ戻ります。それぞれ押し続けると早送りができます。



(4)区間コース距離のセットが終わったらⒸボタンを押すとラップ数のセットとなります。ラップ数も同様にⓁ・Ⓢボタンを押してセットします。

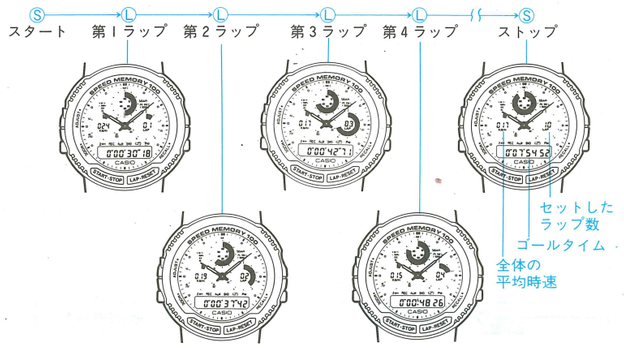


(5)セットが終わりましたらⒷボタンを押すとストップウオッチモードの表示に戻ります。



〈計測開始〉

Ⓢボタンを押して計測を開始します。(Ⓢボタンは押すごとにスタート／ストップします。)
1周回るごと(または区間コースごと)にⓁボタンを押してラップ計測をします。
ゴールの際はⓈボタンで計測を終了します。



〈メモリーの呼び出し〉

メモリーしたラップタイムはⒶボタンを押すごとに第1ラップから順に表示されます。
※アナログ部にある3つの液晶表示部に、秒・1/10秒・ラップ数・平均時速が表示されます。



※ラップタイムと区間平均時速表示のままにしておくと、約8秒後自動的に合計タイムと全体の平均時速の表示に戻ります。

●メモリーの消去

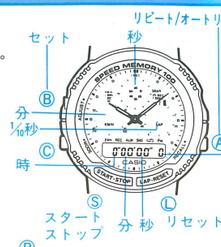
ストップウオッチモードで計測ストップ状態のときⓁボタンを押すと計測リセットとなり、メモリーされていたラップおよび平均時速が消去されます。

ご注意

- ストップウオッチの計測範囲は23時間59分59秒99までですので、それ以上の場合はラップがとれなくなりエラー表示(E)となります。
- 平均時速が1000km以上となるときは、“E”表示となります。
- 平均時速が295～999km/hのときは、平均速度のまわりの表示が全点灯します。
- 全体の平均時速は計測前にセットしたコース距離と周回ラップ数および計測した合計タイムより算出しますので、セットした周回ラップ数と異なるラップ計測をした場合は正しく計算されませんので、計測後にコース距離や周回ラップの違いに気付いたときは、Ⓛボタンを押してリセットする前であれば、正しい距離やラップ数をセットし直せば正しく計算できます。

タイマーの使い方…操作のしくみにしたがってⓒボタンを押し、タイマーモードにします。

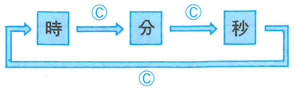
タイマーは秒単位で最大24時間までセットでき、セット時間が経過すると10秒間電子ブザーが鳴ります。
また、セット時間経過後も自動的に繰り返すオートリピートタイマーとして使うこともできます。



●セットのしかた

(1)タイマーモードのときにⒷボタンを押すと「時」が点滅します。

(2)Ⓒボタンを押すごとに点滅個所が以下の順に移動します。





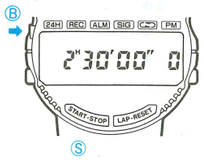
※アナログ部省略

(3)点滅個所がⓁボタンを押すごとに1つずつ進み、Ⓢボタンを押すごとに1つずつ戻ります。それぞれ押し続けると早送りができます。



Ⓒボタンでセットしたい個所を選び、Ⓛ・Ⓢボタンで表示をセットするという操作を繰り返し行ない、時・分・秒を合わせてください。
※持ち時間を24時間にセットするときは表示を“0'00'00"”にします。

(4)セットが終わったら、Ⓑボタンを押すと、点滅が止まりセット完了です。
Ⓢボタンを押すと減算計測を開始し、残り時間を秒単位で表示します。
※操作確認音が鳴ります。



●ロスタイムがある場合は

減算計測中、Ⓢボタンはスタート／ストップボタンとなり、減算計測をストップさせることができます。

●繰り返し(リピート)計測…何度も同じ時間を計測する場合

タイムアップ後(残り時間0)電子ブザーが鳴り終わると、計測前にセットした時間を表示しますので、Ⓢボタンを押すとすぐに計測をスタートします。同じ時間を何回も計測するときに便利です。
計測の途中で最初からやり直すときは、Ⓢボタンを押して計測ストップ後、Ⓛボタンを押すと計測前にセットした時間を表示します。

●自動繰り返し(オートリピート)計測…続けて同じ時間を計測する場合

タイマーモードでⒶボタンを押すごとにオートリピートマーク“AUTO”が点灯・不点灯を繰り返します。
オートリピート計測ではタイムアップ後も続けて計測前にセットした時間を繰り返し計測します。



●鳴っている電子ブザーを止めるには

鳴っている電子ブザーを止めるにはⒶⒸⓁⓈいずれかのボタンを押します。
※オートリピートタイマーを10秒以内にセットして作動させているときは、Ⓢボタンを押しても最初のボタン操作は音止めとなりタイマー計測は止まりませんので、タイマー計測を止めるときはもう一度Ⓢボタンを押してください。

●タイマーセット状態で表示を点滅させたままにしておくと、2～3分後自動的に点滅が止まります。

製品仕様

水晶発振周波数：32,768Hz
常温携帯精度：平均月差±20秒以内
基本機能：アナログ部…時・分(2針)
デジタル部…時刻表示＝時・分・秒・午前／午後・曜日
カレンダー表示＝月・日・曜日 フルオートカレンダー(1985年～2029年)
アラーム機能：時刻アラーム(3つ) セット単位＝分 電子ブザー＝20秒間
時報 毎正時に2回電子ブザーで報時
ストップウオッチ機能：計測単位＝1/100秒 計測範囲＝23時間59分59秒99(24時間計)
計測機能＝通常計測、積算計測、ラップ計測、1・2着同時計測、ラップデータを最大100本までメモリー(区間平均時速もメモリー可)、区間平均時速・全体平均時速計測機能つき
タイマー機能：計測単位＝1/10秒 計測範囲＝24時間 セット単位＝秒
電子ブザー＝10秒間
計測機能＝通常計測・ロスタイム計測・リピート／オートリピート計測
セット機能：時刻・カレンダーセット機能、秒合わせ機能(±30秒アジャスト)、アラームセット機能、タイマーセット機能
その他：自動復帰機能、モニターアラーム、12/24時間制表示切替え
主要回路素子：音叉型高性能水晶振動子 ワンチップC/MOS-LSI
使用電池：SR-1120W(電池別途販売)
電池寿命：約2年(1日当たりアラームを20秒間使用した場合)